

岩手県におけるカツラマルカイガラムシの生態

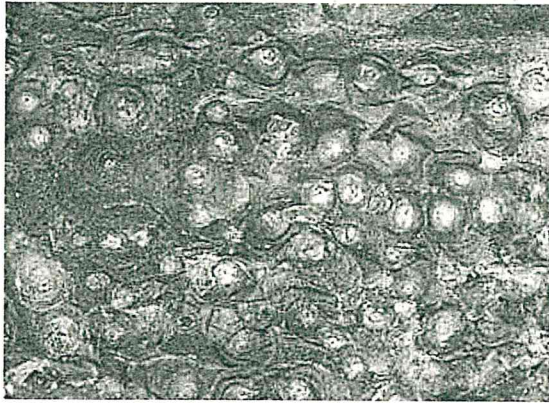


写真 枝上のカツラマルカイガラムシ

カツラマルカイガラムシは、クリ、コナラ、ブナ等多くの樹木を加害します。枝にびっしりと寄生して樹液を吸汁するため（写真）、枝枯れを引きおこし、激害の場合は樹木が枯死することもあります。

本種はクリ園の害虫として古くから知られていましたが、近年、広葉樹林が面積で加害されるようになりました。平成11年に山梨県で確認されたのを最初に、中部地方から東北地方へと被害が広がり、岩手県では平成20～21年に県南部で初めて被

害が確認されました。最近では盛岡市以南の北上川沿いの低地で被害が発生しています。

1 成長過程

卵からふ化したばかりの初期の1齢幼虫は脚が自由には歩き回ります。やがて枝に定着して介殻を形成し、その後は2齢幼虫、成虫となります。雄成虫と雌成虫で全く形態が異なり、雄は蛹を経て翅をもつ形状に羽化します。飛び回って雌成虫を探し、交尾をすると死んでしまいます。一方、雌成虫は介殻に覆われ、定着した場で口針を樹木に刺し吸汁します。雌成虫は交尾後、産卵し、次世代の1齢幼虫は介殻の下から這い出してきます（図1）。

2 生活史

岩手県では年二世代であり、一世代目の1齢幼虫は7月上中旬に現われます。8月頃に2齢幼虫となり、8～9月に成虫となります。この雌成虫が産卵し、9月下旬から10月上旬に二世代目の1齢幼虫が現われます。1齢幼虫は最初歩き回りますが、

やがて樹木に定着し、1齢幼虫のまま越冬します。翌年5月頃に2齢幼虫となり、6月中旬には成虫となります。二世代目を越冬世代といいますが（図2）。

3 薬剤防除の適期

カイガラムシを殺虫剤散布で防除する場合、介殻に覆われていると殺虫剤が虫体に届かず効果が低くなります。本種の防除適期は、1世代目の1齢幼虫発生期ですので、7月上旬には枝先をよく観察し、防除適期を逃さないことが重要です。

林業技術センター研究部

首席専門研究員 高橋健太郎

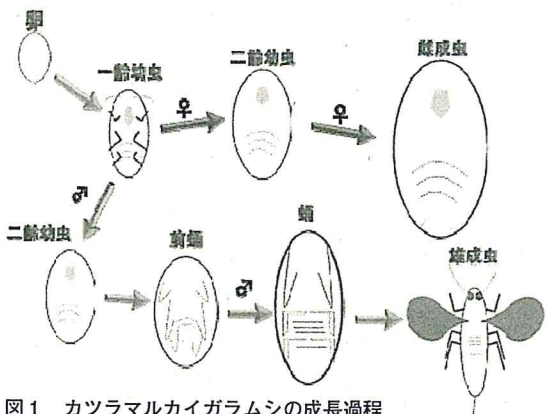


図1 カツラマルカイガラムシの成長過程
河合（1980）日本カイガラムシ図鑑を参考に作図

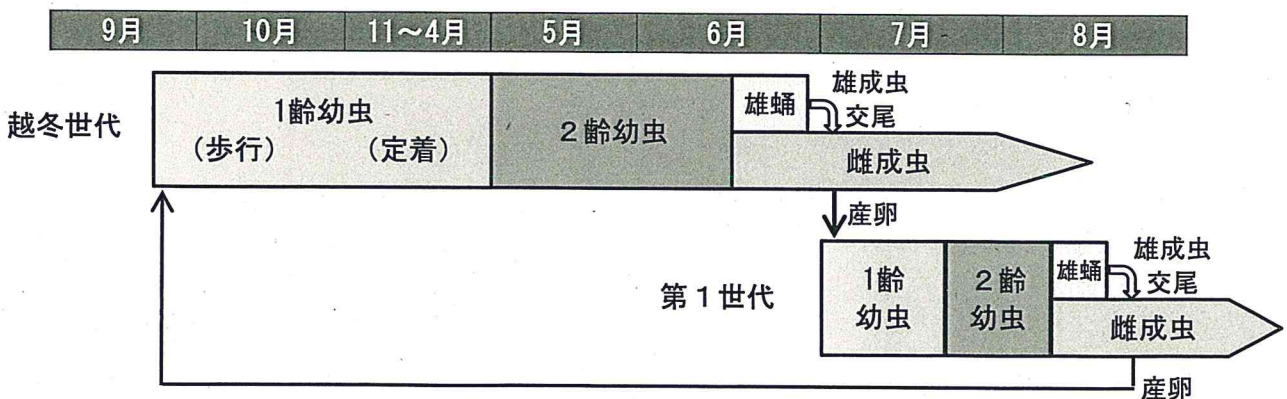


図2 岩手県におけるカツラマルカイガラムシの生活史
浦野（2013）の日本森林学会における発表を参考に作図